

豊かで 伸びやかに そしてたくましく



スカウト み ゃ ぎ

No.42

発行
日本ボーイスカウト宮城県連盟
発行日
平成 28 年 11 月 20 日



東部地区 ビーバーランド*富谷市(当時富谷町)「西成田コミュニティーセンター」



仙台地区 ビーバー祭り・カブラリー*仙台市宮城野区「榴岡公園」

第5回北海道・東北ブロック野営大会（5HTC）が開催される

特別委員会委員長 横澤 繁

北海道・東北ブロック大会(別称:北海道・東北ブロックキャンポリー)は、国内からの参加者を交えて北海道・東北の1道6県の代表スカウトが一堂に集い、日頃培った精神や技能を発揮し、開催地域の人々とも触れ合いながら、友情を深め様々な体験を通して成長する機会とするために4年に一度行われる野営大会です。次回の大会(6HTC)は5年後の平成33年、宮城県を会場に開催されます。

【テーマ】「山・湖・人」～福島の猪苗代湖で人(スカウト)のかかわりを楽しもう！～

【会場】福島県猪苗代町「天神浜」(少年団日本聯名第1回野営大会の地)

【会期】平成28年7月28日(木)の夕刻の開会式に始まり、7月31日(日)の夜間に実施する閉会式をもって終了する。

【派遣期間】平成28年7月28日(木)～8月1日(月) *大会本部等要員・野営区要員は7月27日(水)から

【参加人員】600名(宮城県連盟から121名参加)

【主催】ボーイスカウト北海道・東北ブロック協議会

【後援】福島県・福島県教育委員会・猪苗代町・猪苗代町教育委員会

【支援】陸上自衛隊第6師団

【協力】猪苗代町小平潟区・松橋浜区・小平潟天満宮・天神浜オートキャンプ場



「5HTCに参加して」

宮城第1隊 イルカ班 伊藤 玖真（仙台第35団BS隊）

ボーイスカウトの5HTCが、福島県猪苗代湖天神浜でありました。面白かった事は、自由選択プログラムのカヌー体験です。僕は、1人乗りのカヌーに乗りたかったけれど、6年生は2人乗りだったので、残念でした。

初めは、なかなか曲がれなくて苦労しました。しばらくたってもあんまり曲がれませんでした。しかし、スピードだけは、しっかり出せました。思ったより服が濡れて、岸に戻った時は、ビチョビチョでした。だけどとても楽しかったです。また、機会があったら乗りたいです。後、ツリーイングも楽しかったです。途中で、軍手がロープとの摩擦で、熱くて痛かったです。馴れてくると速く上がることが出来ました。

辛かった事は、最後の日の撤収です。いきなり、雨が降ってきました。特に大変だったのが、フライをたたむことでした。荷物を運ぶのも大変でした。その後、バスに乗り仙台に向かっていると寒気がして鳥肌が立ちました。バスから降りた後、濡れた荷物が気になりました。袋に入っていたチーフとハットが乾かなくて、変な感じでした。晴れの日のキャンプが、いいと思いました。



「5HTCの思い出」

宮城第3隊 富士原 瞳矩（石巻第2団BS隊）

僕が所属する石巻2団は、石巻地区、県北地区、仙南地区が一緒となり、宮城第3隊として5HTCに参加することになりました。隊キャンプの経験しかなかった自分にとって5HTCのキャンプは人数や環境も違うので、期待と緊張の気持ちでいっぱいでした。

出発前に顔合せを兼ねて一度、訓練キャンプを行い、問題点や今後の課題を整理して大会に参加しようということになり、訓練キャンプを行いました。その時は打ち解けられなかった仲間と大会では活動を通して徐々に気持ちのつながりが深くなり、楽しい時間を過ごすことができました。また、他県のスカウトとの交流や宗教儀礼などのプログラムも普段の活動ではできない事なので、すごく新鮮で勉強になりました。

出発前に隊長から、「設営や炊事は知識があっても技術スキルがないと大会に行ってもプログラムを楽しむことができない。だからこそ日々の訓練が必要だ。」と言わされてきました。

5HTCに参加して訓練の大切さが良くわかりました。今回の経験を生かして日本ジャンボリーや世界ジャンボリーにも積極的に参加したいです。そして今回の大会でできなかったことをできるようにしたいです。

地区活動紹介

■東部地区カブラリー／ビーバーランド開催

泉第1団カブスカウト隊隊長 三枝 慎

9月4日(日)、富谷市(当時富谷町)西成田コミュニティーセンターにて、「東部地区カブラリー／ビーバーランド2016」が開催されました。カブラリーのテーマは、「カブエンターテイメント～まごころをこめて～」です。



今年はビーバーランドと同日同場所開催となりました。ビーバーランドではオリンピックイヤーということもあって『西成田ビバリンピック』を行いました。今年のカブ隊は、ビバリンピック終了後のビーバースカウトに対する「おもてなし」です。この日のカブ隊の参加者は18名、ビーバー隊はスカウト17名とその弟妹となりました。混成組を3つ作り、デンリーダーと組長を中心に午前中におもてなし準備をしました。

おもてなし①：手作りお菓子を振る舞う(ラムネとわらび餅風菓子)

おもてなし②：割りばし鉄砲による射的ゲームで楽しんでもらう

おもてなし③：広場で全員参加型ゲーム

最後は広場で全員参加のゲームを行いました。子どもたちのエネルギーはすごかったです！この日一緒に過ごした東部地区の皆とは打ち解けて楽しんでいました。また次に会う時が楽しみです！



■平成28年度県北地区スカウトラリー

県北地区事務長 富士原 孝一

県北地区では地区内のスカウトの交流を目的として、古川第1団・高清水第1団・迫第1団の地区内全部門のスカウトを対象に毎年「地区スカウトラリー」を実施しています。今年は9月18日～19日、栗原市花山青少年自然の家で実施し、スカウト18名、父兄4名、リーダー6名が参加しました。



【活動内容】

ウォークラリー(館内)、野外炊飯、キャンドルサービス、そば打ち体験、細倉マインパーク見学など。



■仙台地区カブランリー・ビーバーまつり

9月22日、宮城野区榴岡公園にて「仙台地区カブランリー・ビーバーまつり」を開催しました。参加者は、総勢88名(内スカウト39名)。スカウトの日のカントリー作戦に合わせ、午前中は2チームに分かれて公園内の清掃活動を行いました。もともとゴミの少ない公園ですが、それでも大きなゴミ袋がいくつもいっぱいになりました。

今回のテーマは「”友情”仲間の輪」です。名刺交換をして仲良くなったチームは合計4つ。午後の部では、それぞれのチーム対抗のミニ運動会に挑戦しました。玉入れ・綱引き・ドッジビーの対抗戦で盛り上がり、表彰式では優勝チームをたたえました。

今回名刺交換をして仲良くなったスカウト同士で、今度はお手紙の交換をして友情を深めることにしています。小雨にも負けない元気と歓声が公園に大きく響いた一日でした。

仙台地区コミッショナー 乙訓 敬仁



■富士章伝達式

9月22日、「仙台地区ビーバーまつり・カブランリー」の開会式において、先日富士章を取得した仙台28団のベンチャースカウト、尾形凜太郎君の「富士章伝達式」が行われました。

尾形凜太郎君は、兵庫県宝塚市の宝塚第5団からビーバースカウトの時に仙台28団に移籍、以後、スカウト活動に積極的に取り組んできました。ベンチャーでの最初のプロジェクトは壹高名物の男子シンクロナイズドスイミング「仙台壹高 WATER BOYZ！」。

多くの観客を沸かせ、プロジェクト達成となりました。その後も仙台地区ベンチャーミーティングの議長を務めながら、2回連続雪中キャンプへの参加、また、23WSJ参加の際には、会場MAPやおきての英訳などが載ったアプリを開発し、各国のスカウト達がダウンロードし活用されました。

念願の富士章取得を受けて尾形凜太郎君は「ずっと目標にしていた富士スカウトになることが出来、非常に嬉しく感じています。今後は国内海外様々なところで活動をして行きたいです。後輩の皆さん中からも、隼・富士スカウトが誕生することを期待しています。」

と、後に続く後輩たちへのメッセージを語ってくれました。

今は大学受験勉強に一生懸命取り組んでいるところですが、今後の活躍にも期待します。

仙台地区コミッショナー 乙訓 敬仁



■第28回みやぎのまつり

仙台地区総合委員長 柿沼 富雄

今秋一番の素晴らしい天気に恵まれた10月16日、榴岡公園にて「第28回みやぎのまつり」が『私たちのまち宮城野・つなごう未来へ』をテーマに多くの来場者の中、開催されました。

今回、まつり実行委員会から子ども達に大人気のモンキーブリッジを是非作ってもらいたいとの依頼があり、奉仕者は多くありませんでしたが、ロープ1本の結びにも神経を使い、渡る子供にも目を配り、安全第一で補助、家族で130名ほどの行列が出来、後半には最後尾のプラカードを掲げるほどの大盛況でした。

また、毎年参加している仙台第12団では、丸太を切った板や石に絵を描くコーナーを設けました。お母さんからアドバイスを受けながら描いている女の子は「私の机の上に置いておくの」と喜んでいました。

*「加盟員拡大のために来年もやりましょう！」仙台地区小山委員長より



■第28回青葉区民まつり

仙台地区総合委員長 柿沼 富雄

11月3日(文化の日)青葉区民まつりが市民広場と勾当台公園(地区の出し物設営場所)で開催されました。公園はヒマラヤ杉や紅葉などの木々があり、陽が当たらない場所の為、時折冷たい風がビル風となって吹き込み寒さが身体に浸みるぐらいでした。

今回、地区として7回目の参加で「ぼうけんひろば」をテーマに「モンキーブリッジ」「ロープ渡り」を設営しました。加盟員拡大の為、一人でも入団者がいればと7ヶ団に各団の紹介ポスター(活動の内容や写真、連絡先などが記載:模造紙1枚)をパネル化にして展示しました。活動写真を一面に貼った団もありました。しかし、幼稚園児や小学生の姿が少なく見受けられました。

ここ数年、同じ出し物が続いているので、来年は面白味があって、危険度が少なく、現代の子供達のニーズに合った出し物を提供しなければならないでしょう。



■平成28年度第1回安全セミナーが開催される

平成28年度第1回安全セミナーが11月13日(日)多賀城分庁舎内会議室を会場に開催されました。ウッドバッジ研修所(新課程)・団委員研修所を履修した隊指導者や団委員(長)を対象に、参加者がスカウト活動での安全の確保及び危機管理を有効に行うことが出来るよう研修することを目的としています。

当日参加者は6名で、「スカウト活動における安全」の他、グループワークで想定した危機管理体制を体験、安全計画の立案、保険(そなえよつねに共済と賠償責任保険)について熱心に学びました。

■平成28年度第2回スカウトセミナーが開催される

9月11日(日)多賀城分庁舎内会議室を会場に平成28年度第2回スカウトセミナー(ボーイスカウト講習会)が開催され、4名が受講しました。このスカウトセミナーは、18歳以上を対象に開設され、体験を通してスカウト運動の概要とスカウト教育の原理と基本的な方法について知ることを目的にしています。保護者はもちろん年齢に達していれば、ベンチャースカウトやローバースカウトも参加できます。次回は、石巻地区担当で12月18(日)、涌谷町公民館にて開催されます。



■団委員研修所宮城第9期が開催される

大崎市鹿島台「学童農園」を会場に10月8~10日までの2泊3日で、団委員研修所宮城第9期が日本連盟副リーダートレーナー小堤泰氏を所長に開設され、県内外の指導者7名が参加しました。この団委員研修所は、導入訓練課程(スカウトセミナー)を修了した者を対象に開設し、参加者が団指導者としての任務を理解し、団の管理と運営の能力を高め



ることを目的にしています。参加者は多いと言えませんが、今回は実修所経験者が6名もあり、学習意欲が高い研修となりました。実際に自団にて団委員長・団委員をされている方々が多いということもあり、学んだことを自団にどう活かそうかと考えて受講されていたのが、印象的でした。

■平成28年度信仰奨励章指導者研修会

指導者養成委員 田端 恒子

11月20日(日)多賀城分庁舎内会議室にて、今年度の信仰奨励章指導者研修会を行いました。日本連盟リーダートレーナーでもある千葉県連盟コミッショナーを講師に、16名が参加した研修会となりました。

「信仰」と「宗教」の違い、「信仰」に対する基本的な考え方や信仰奨励章への取り組み方、各部門への支援のポイント等を伺いました。その中で、自分自身の行ってきたスカウト活動や最近の日本連盟での状況や今後の動きなども知り得ることができました。

この「信仰奨励章指導者研修会」も回を重ねてきましたが、毎回内容が違いますので、一度参加すれば良いという研修会ではありません。ぜひ、各指導者の方々には何度も参加して頂き、理解を深めてもらいたいと思います。



県内全成人指導者の皆様へ

平成29年度の登録から『セーフ・フロム・ハームEラーニング研修』を全ての指導者が履修することが必要になりました。つきましては、スカウティング1月号に別冊として「セーフ・フロム・ハームガイドブック」が入ってきます。保存版となりますので、手元に置いて各自よく読み込んでおいてください。

全国防災キャラバンがイオンモール石巻で開催される

石巻地区委員長 菅野 五郎



東日本大震災の発災から5年後の今年4月に熊本地震が発生し、改めて「防災」の必要性を痛感した方が多くいたことだと思います。

今回、地域社会で「防災」への取り組みについて考えて頂く機会にしようと、宮城県連盟とイオンモール石巻の相互協力で「全国防災キャラバン」を11月6日(日)午前10時～午後3時、イオンモール石巻1階「緑の広場」で



開催されました。緑の広場には、救急法・防災キムス・ロープ結び・クイズ等のコーナーを設け、石巻地区の方の呼び掛けの甲斐があり、開始1時間後には満席となりました。来場者のほとんどが津波を経験した方々なので、各自治体や学校で防災訓練を受けており、防災キムスや救急法はスムーズに進みましたが、ロープ結びの「もやい結び」では小学生から60代のご夫婦までが何度も挑戦し、四苦八苦していました。準備していたロープ(80cm)を使い果たすほどの大盛況でした。当日は参加者が約200名で、スタッフ(指導者22名、ボーイ・ベンチャー・ロバースカウト13名)は35名。ある来場者は震災当時の事を語られ、津波の脅威、防災や救急対応の必要性を改めて考えさせられる日となりました。震災に遭われた地域の一日も早い復興と震災前の笑顔が見られます事を願いながらキャラバンを終了しました。



■東部地区BS大集会が開催される

東部地区委員長 安倍 毅彦



10月29日(土)～30日(日)の2日間、大崎市鹿島台学童農園において「東部地区BS大集会」を開催しました。東部地区の各団では、ボーイスカウトの基本となる「班活動」が思うように出来ない状況にある中、各団のスカウト約20名が集まり薪による炊事、切り出した竹を使ったスタードームの作成、竹細工、応急担架の作成など楽しく活動しました。さまざまなプログラムの中、想定外に盛り上がったのが、1日目に作成したスタードームを2つつなぎ合わせ球体にして、学童農園の斜面を転がすというものでした。歓声を上げながらスカウト全員が協力して斜面を押し上げ転がす姿は微笑ましいものがありました。今年度、東部地区のボーイ隊の集まりは3度目になりました。確実に団を超えた仲間作りが進んでいます。

これからもスカウトが、リーダーが笑顔一杯で活動できるプログラムを行っていきたいと思っています。



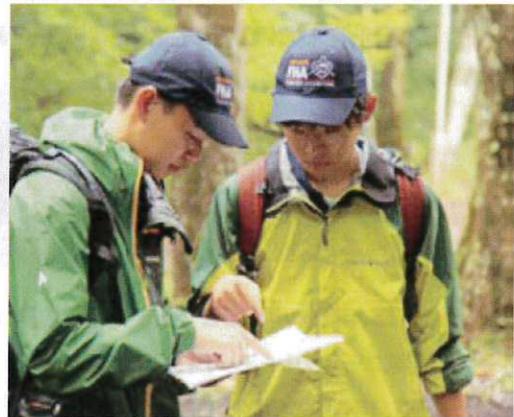
■富士特別野営 2016に参加して学んだ事

仙台第37回ベンチャー隊 守 泰平

今年の夏、山梨県山中湖で開催された富士特別野営 2016 は、残念な事に天候に恵まれず、雨の中での活動が主であった。しかし、思い起こしてみても不思議と厳しい条件の中で展開されるプログラムは、驚

きの連続と学ぶ事が多い有意義なキャンプであった。初日、設営時にキャンプの設定があり、そこに物語性を兼ね備えていて昨今の体験型ゲームの様で活動を盛り上げて行った。

メインのビバーカハイキングでは、班員の靴破損に伴い交代で荷物を持って移動し、真夜中に「地震だ！ 非常起床」と言わされ抜き打ち緊急避難荷物点検等、原隊では経験しがたい事が多かった。今回参加によって得た事は、一人では苦痛に感じる事柄であっても、仲間と共に実行すればそれは和らぎ、爽やかな別の何かへと変わるものだと実感した。私は、今回経験・体験した事はスカウト活動の厳しさ、素晴らしいを改めて学んだキャンプでした。



■富士特別野営 2016に参加して

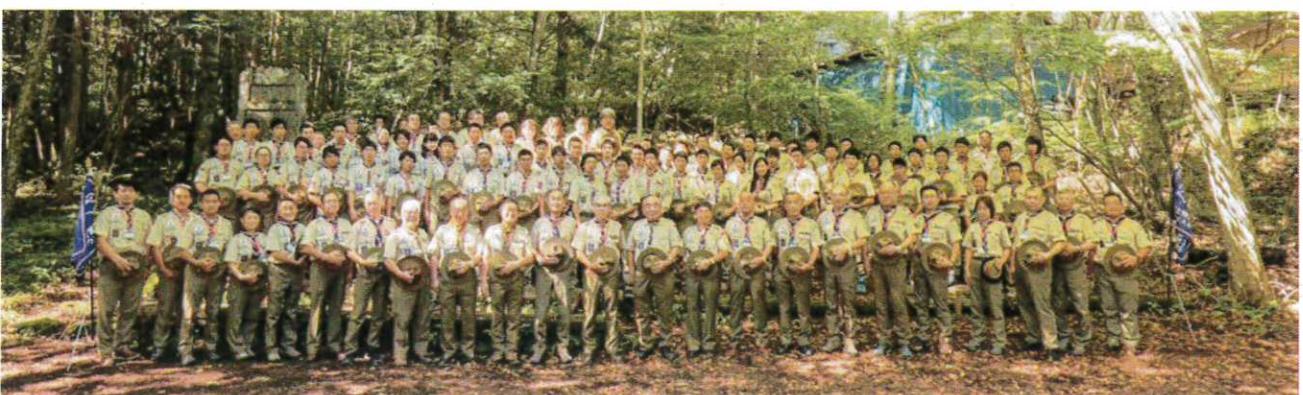
仙台第37回ベンチャー隊 鷺 瀬梨華

「参加して良かった」率直な感想です。

私は8月16日から21日の6泊7日、山中野営場で開催された富士特別野営 2016に参加しました。普段の活動では味わえない刺激を受けたと同時に、自分の技術不足と精神の弱さを痛感しました。



大型工作物作成・モールス信号・夜間訓練・一泊ハイク。特に一泊ハイクは自分との戦いでました。降りしきる雨の中、一日分の荷物を背負い、地図片手に出発。今迄の訓練の集大成でした。筏を作つて山中湖を渡り、幾つもの山を登り追跡サインを探しながらスカウトベース。夜はビバーカ「正直、辛かつた」です。雨で体温が奪われ体力も精神も極限になりかけた私を励ましてくれたのは、班の仲間達でした。お互い励ましながらゴールした時、隊長から「おかげり、よく頑張った」の一言は今も胸に残っています。この達成感は、日々の訓練と出会った仲間無しでは、成し得なかつたと思います。この感動を忘れず、参加に当たり指導下さった方々に感謝しこれからの活動へ最大限に生かして行きたいです。





○活動報告○

1. 無人島キャンプ 日時:9月3日-5日 場所:馬放島

埼玉ユース会議主催で宮城県七ヶ浜町にある馬放島で無人島キャンプを行いました！

以前から県内のボイスカウト活動で馬放島を利用することがあったものの、東日本大震災以降は利用されずいましたが、埼玉ユース会議より無人島でのキャンプをしたいと働き掛けがあり、今回の開催に至りました！

初の無人島での生活は、困難もありましたが天気にも恵まれとても充実した3日間を過ごすことができました。

来年も開催したいと考えておりますので、ご興味がありましたらご連絡ください！！



2. 平成28年度 MyCM 総会 日時:9月24日 場所:ボイスカウト宮城県連盟

宮城ユースクルーミーティングが立ち上かり、1年が経ちました！

正直、何もかも手探り状態で不安しかない1年でした。これまで支えてくださった県コミッショナーはじめ、県連盟の役員の皆さまありがとうございました。

不手際が多く反省することが多々あり、その都度ご心配をおかけして申し訳ございませんでした。

しかしながら、MyCM一同、失敗からいろいろなことを学び、ローバースカウト教育の目指すものへ日々近づいていきたいと思いまのでこれまで以上にご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。



3. RCJ クエスト 2016 in 高萩スカウトフィールド 日時:9月17日-19日 場所:茨城県高萩スカウトフィールド

今回、同じ団の八巻さんに誘われる形でRCJ クエストに参加しました。しばらく原隊のちょっとした手伝いしかスカウト活動に参加せずにいたので、キャンプ自体久しぶりでした。RCJ の活動に参加するのは今回が初めてなので、正直右も左もわからない状態で参加前の不安も大きかったです。

しかし、県連の皆さんのサポートのお陰で、楽しい活動をすることができました。事前の自己紹介で積極的なアウトドア活動を紹介している方も多く、さてどんな人達が来るのかと期待半分、不安半分でした。会場で会う人は当然ほぼ全員が初めて合う人で、少し緊張しましたが、共通の話題で盛り上がれる人も多く、すぐに打ち解けることが出来ました。スカウト同士のツリーは、普段の生活でのそれとは少し違うものがあり、それが新鮮で、同時に少し懐かしくもありました。ローバーフェス等のイベントでは持ち芸を披露したり、ちょっとめでたいサプライズがあったりしてとても楽しい夜でした。

この活動で、久しぶりにスカウト活動に、そしてほぼ初めてローバーの活動に参加したのですが、キャンプの楽しさや、スカウト特有の雰囲気に触れられる有意義な経験となりました。大学ローバーの存在を初めて知ったし、県の枠を超えた活動がこうして行われている事を知ることが出来て見聞を広げることができました。正直学校が忙しくこれから参加できるかけ怪しいところですが、また参加したいと思います。

活動に対するご意見や参加について等は以下の連絡先へよろしくお願い致します。

miyagi.youth.crew.meeting@gmail.com

また活動の詳細については以下 URL か右上の QR コードより Facebook ページをぜひご覧ください！

<https://www.facebook.com/MyCM2015/>

スカウツ スピリットを繋ぐ②

杉原 正：公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 顧問・先達

～スカウターとして～

『スカウター』、B-Pはリーダーに、リーダーという言葉は残さず『スカウター』なのです。

スケートをする人をスケーター、スキーをする人をスキーヤーと言いますが、リーダーという表現ではスカウトをする人という風には思えないので、『スカウター』を使っています。

リーダーはスカウターであって欲しい、スカウトをする人であって欲しいと思います。ガールガイドのリーダーをガイダーと言いますが「スカウトをする」「ガイドをする」人が非常に大事な事ではないかと思っています。自分自身を見ても、もしかするといつもリーダーであって子ども達の前に立つ時にも、人の前に立つ時にも、自分が『スカウター』であるという自負をどの程度持っていたか反省しています。高い目線でのものをいう事ではなくて、少年の心を持って子どもに接するスカウト活動を行う。そういう人間だ、ということになっていくべきだと思います。私たちは、「スカウティング」という言葉を往々にして使いますが、スカウティングという言葉は3つの意味合いに分かれているような気がします。

一つは、"スカウト教育"という場合にもスカウティングと使いますが、その時は「スカウト教育とは何か」ということをきちんと話されないと誤解が起きることがあるのではないかと思います。

二つ目は、"スカウト活動"という場合、単に"スカウティング"と言ってしまうと、どうも主語がぼやけてしまいます。最後は"スカウト運動"は何なのか、それをみんな"スカウティング"と言ってしまうことがあります。我々は『スカウティング』という言葉を使う時にはよく吟味をして、スカウト教育について人に説明する時にはその内容をきちんとお話しになって欲しいし、"スカウト活動"をという時にはその内容を言って欲しいと思います。

"スカウト教育は"という時には、非対象者に対してスカウト教育を、あるいは保護者に対して、社会に向かってスカウト教育はどういうものかということを明示するためには、どういう言葉を使った方がいいのか。"スカウト活動は"という時には、これはスカウトに対する目線の事ですから、きちんと分けてお話をした方がいいと思っています。

三つ目は"スカウト運動"スカウトムーブメントになっているかということは、社会に貢献をしているのか、社会に役立っているのかということです。

～地域貢献、社会貢献をしているのか～

日本のスカウト運動は、あくまでも私個人の意見ですが、スカウティングは地域や社会に役立っていないのではないかと思います。スカウト活動という中だけで考えないで、地域や社会に役立っているのだろうか、ということをもう一度考えたらどうかと思います。

最後に好きな言葉を申し上げます。「難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを愉快に、愉快なことを真面目に」(劇作家 井上ひさし)、これはこれからスカウト活動に実際関わるリーダーにとって心しておかなければならぬと思います。

難しいことを難しくは誰でも出来ますよ。難しいことを易しくどう教えるか。難しいことをサッと言ってしまってお終いにするのか。それは深くやらなければいけません。愉快なことをただ面白かった、良かったではなくて、そういうのをきちんと真面目に受け止められるように仕向けているかどうか。そんなことを感じております。私は「スカウト精神」をスカウトに繋ぐということは、もう一回「ちかい」「おきて」というところの原点に返って、私たちがそのことを十分咀嚼して本当にやっているかということを考えておかなければならぬと思います。大変なことがいっぱいあると思いますけれども、我々は、次代に繋ぐ責任があるということを共通な理解としてお互いに頑張りたいと思います。

(第57回全道スカウティング研究協議会 記念講演より)

小学生のキミへ いっしょに活動しようよ！

ボーイスカウト募集中

子ども達に「自分のことは自分でさせたい」「生きる力を身につけさせたい」「野外でのスキルを身につけさせたい」「人とちゃんと話せるようにさせたい」「自分で考え行動させたい」と日頃から考えているお父さん、お母さん方。

ボーイスカウトは、イギリス生まれ。世界中で認められている社会教育運動です。いろいろな体験や経験を仲間とともにを行うことで、子ども達一人ひとりの成長につながっていきます。

男の子も女の子も大歓迎です！

＜お問い合わせ先＞



■県連盟ホームページタスクチームよりお知らせ

平成25年7月に開設した県連盟ホームページは、毎月(1ヶ月間)のアクセス数が約700件と多くの方にご覧いただいております。各団・各隊での活動、地区での活動など、どんどんお寄せ下さい。Facebookの情報もご覧いただき、「いいね!」「シェア!」を拡散してください。

◆県連盟ホームページ

<http://www.scout-miyagi.jp/>

◆県連盟 Facebook

「ボーイスカウト宮城県連盟」で検索

■編集後記

宮城県連盟の加盟員数が今年度1,000名を割りました。これは、昭和36年の加盟員数と同じとの事です。今の青少年の現状を考える時、スカウティングはとても必要な運動であり、活動だと強く感じています。この「スカウトみやぎ」もスカウト募集のツールの1つとして、各団では是非活用して頂きたいと思います。

(鈴木)

■発行 日本ボーイスカウト宮城県連盟

■編集 宮城県連盟組織拡張広報委員会

委員長 鈴木 美恵子

委 員 白根沢 健 小野寺 康 松本 康男
渋谷 純 小野寺 純 大沼 茂雄

〒985-0841

宮城県多賀城市鶴ヶ谷1丁目4番1号

宮城県多賀城分庁舎内

TEL022-355-6265/FAX022-355-6267

HP URL <http://www.scout-miyagi.jp/>